



海のたより

第52回パールレース
クラス優勝、総合4位の
ダンシングビーンズ
スタート前、VOCにて

目次	行事予定
表紙 パールクラス優勝、ダンシングビーンズ	8月7日 蒲郡マリンカップヨットレース
P 2 ナイトレース、ホーネット優勝	8月28日 理事長杯ヨットレース
P 3 各艇コメント、成績表	8月28日 ラグーナカップヨットレース
P 4 7月スモールはやぶさ初優勝	9月11日 MCC佐久島レース(早朝)
P 5、6 パールレースダンシングビーンズ	9月15-19日 プレ国体、海陽沖
P 7 パールレース ホーネット	9月25日 9月スモールレース
P 8 パールレース ベベ	

三河湾周航レース優勝記

ホーネット 正木 宏

今回のレース中、何年か前のナイトレースで同じコースを950で走って、一色ブイをトップで回ってそのまま逃げ切ってフィニッシュ、優勝もできた記憶がふとよみがえってきた。

家に帰って過去の会報をめくっていると、確かに「平成16年8月1日MCCだより SAILING」、ファーストホーム&優勝、西浦あたりでスナメリの群れが追いかけてきたことなど・・・。参加艇は5艇

(マーメイドプリンセス、アルミス、オデッセイ、ダンシングビーンズ、ホーネット)。とにかくその頃は、MCCではソーセージ以外で余り勝てずにいたので島周りで勝ててうれしかった様子が書いてある。自分が乗ったナイトレースではその時以来で、本当に久しぶりに優勝記を書くことができた。

連日の猛暑の中、この日ばかりは台風の影響も少しあったのか、湿り気のある東寄りの風がまずまず安定して吹いた。そのため、ロングレグの豊橋-野島はスピン、生田-豊橋はクローズとなった。豊橋からのコースは、アルミス、セレスティーヌ、ルートリス、ホーネットが野島に向かい、オデッセイだけが生田に向かう逆回りに果敢にチャレンジした。

スタート前、豊橋方面にバウを向けた感じから、まあスピンで間違いないだろうと思い、ジブも揚げずに即スピンでスタート。オデッセイもスピン、他の3艇はジブのようだ。上手く飛び出したつもりだったが、早くもコース維持がきつくなり、我慢しているうちにジブで走っている2艇に抜かれ豊橋は3番で回航。

前2艇はすぐにスピニアップしないので、うちがすぐにスピンを揚げれば追いつけそうだったが、先程のスピンダウンの收拾に手間取ってそれができずにもったいないと思う。

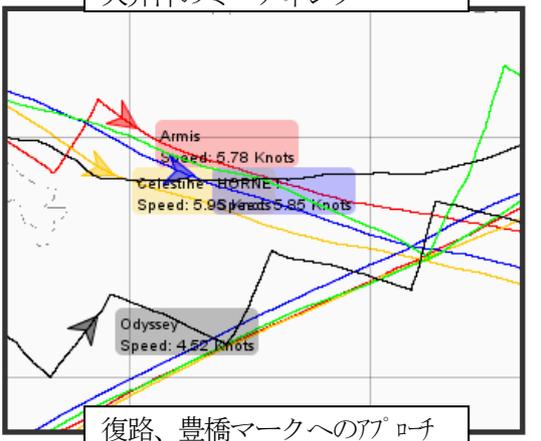
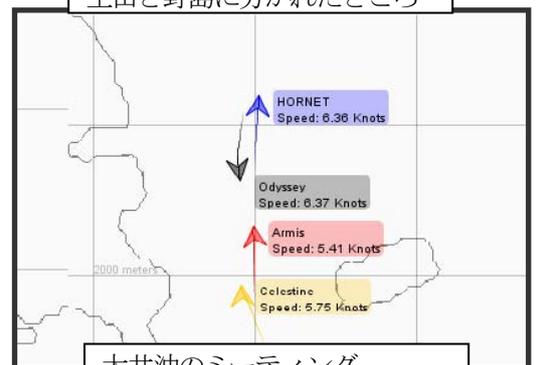
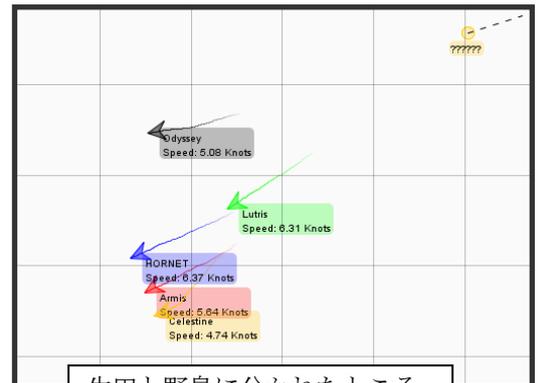
風が少し落ちてきて、パワーを保つように注意を払って走っているうちに先行し、野島では後続を離すことができた。YAMAHA33S流用の大きなスピン(レーティング変更)を使った成果が発揮されたのだろう。スピンを下ろして篠島、松島の間を、更に角石をかわしていくと逆回りのオデッセイとミーティング、ムムム、どっちがいいのかわからない。

一色回航後、後続のアルミスが近づいてくるようだ。夜間のセーリングで舵とりが少しあらかなくなったのか上らせ過ぎたり、風の振れもあったりして差が縮まって来たようだ。中村さんにヘルムを替わってもらおうが、ジブはレーティング変更してNo.1はないのでNo.2で風が落ちないように祈りながら頑張るしかない。そして位置取りも慎重に。月夜が明ける頃には珍しく富士山が確認できた。風も何とかもってくれそうだ。

豊橋はポートからスターボにタックして回るような形になり、ブイギリギリのコースでタックすると、そのままでは小島をかわせないことに気付き、しまったと思っていると、少しずつリフトして小島をかわせるようになった。アルミスが少しずつ追い上げてくるが、フィニッシュまで何とかトップを維持できてほっとする。

振り返ると、小さなミスはあったものの、レーティング変更が今回の風とまずまずマッチし、特にスピンの走りを発揮できたことが大きかったようだ。

パールレースもスピンの活かせる風が吹くといいが・・・



ナイトレース、三河湾周航レース、参加艇のコメント

【ホーネット】

今回は、レーティング変更(スピン大型化、ジブ No.2(125%))したのが風にもマッチし、何とか優勝できました。

豊橋→野島、スピンランで3位からトップに出て、アドバンテージを得たことが良かった点。スタート→豊橋、スピン→ジブ交換が遅れたことが反省点。

風が落ちることなく月明かりの中、楽しいレースができました。



【アルミス】

朝の時間と風から、時計回りのコースを選びました。

野島の手前で風が落ちたところでホーネットに引き離されてしまいました。

生田のあたりで10分くらい離されていましたがクローズのコースで少し挽回することができました。月明かりもあり、早いレース展開ですずしい中で体力的に楽で楽しくレースを終えることができました。



【オデッセイ】

レース前にインターネットで風予報を調べてレースプランを練って臨んだが、やはり予報はあくまでも予報、田原寄り風が落ちると読んでニコニコしながら走っていたが、こちらも野島以降の上りが厳しく、先回に続き幻の優勝となった。



【ルートリス】

スタートは珍しくトップで飛び出したものの、第1マークを廻った後からはずっと後じんをはいする位置となり、野島横での漁船とのミート、あげくのはてにはマークブイを間違い、皆さんとは1時間も遅いフィニッシュとなってしまいました。

来年からはコース等充分勉強させてもらいましたので是非上位に食い込みたいと思います。残念ではありましたが、楽しいロングレースでした。



コメント	三河湾を右回りか左回りかを参加艇が選択するレース 初の試みで開催されたナイトの周航レース、はたして各艇はどのように選択するのか…… 参加5艇、月夜の三河湾、風も順調に吹きそうで速い展開が予想された 選択コースの結果はオデッセイだけが生田へ他の4艇は野島へ 遭遇は中間点の知多ナポリの沖あたりでほぼイーブン後半戦がどうなるか 生田からの上りか野島からの上りか…潮の影響は？風向きは？ 航跡を参考に分析ください							
	名称	三河湾周航レース						
コース	S-小島-豊橋潮流-生田-一色-野島-豊橋潮流-小島-F							
距離	S-小島-豊橋潮流-野島-一色-生田-豊橋潮流-小島-F							
	風速	39		1:00:00				
スタート	23:00:00		着	(B)	(A*B)	順		
SNo	艇名	TYPE	MRC	到着時刻	順	所要時間	修正時間	位
5791	Hornet	Seam 31	1.013	6:15:30	1	7:15:30	7:21:10	1
4774	Armiss 5	J/V9.6CR	1.012	6:17:22	2	7:17:22	7:22:37	2
4832	Odyssey	Tsuboi IMS950	0.98	6:48:39	4	7:48:39	7:39:17	3
3173	C'elestine	Seam 31	1.016	6:32:15	3	7:32:15	7:39:29	4
4932	Lutris	Slot 31	0.992	7:50:58	5	8:50:58	8:46:43	5

7月スモールレース はやぶさ 優勝

石原和久

今年度より MCCに入会しましたはやぶさです。
 全員 66 才以上の年寄り軍団ですが、みんなヨットが好きな仲間です。
 昨年秋から練習を重ね、4月からは毎月スモールレースに参加しています。
 7月のスモールレースの前には苦手なスピンの練習、船底整備をして臨みました。
 スタートは最悪、ライン手前で艇を止めてしまいドンジリでスタート。
 スタート直後からホープにかなり先行された、このままどんどん離されるのかと焦る。
 直ぐ下を並走するあやの北河氏より大声でジブトリムの指導を受ける。
 その甲斐あってスピード、上りとも良くなって、あやを抜き、先行するホープにも接近する。
 ホープのすぐ後ろまで接近、上か、下か、上突破できるか不安ながらチョイ上ってみる、いけそうだ、抜いた、抜いた、トップだ、みんなにんまりの笑顔です。
 なんとかトップをキープしたい、小島ブイの回航、スピニアップの手順、役割分担を徹底する。
 回航もスピニアップもトラブルなく無難にこなした。
 なにせ、レース本番でスピニアップは初めてのこと。
 下マークの回航、スピンダウン、ジャイブもなんとか切り抜けた。
 日ごろの練習の成果が少し出てきたし、チームワークもよくなってきた。
 上、下3往復の予定だったが2往復に変更、トップをキープしたままフィニッシュホーンの祝福を受ける。
 終わってみれば着順1位、修正1位の完全優勝、全く想定外の嬉しい結果でした。最初で最後かも！



スキルアップを図り、艇を整備し、メンバーの勝ちたいというファイトがはやぶさを走らせたと思います。
 レースは逃げ腰の連中でしたが面白みが湧いてきたようです、次回も頑張ります。
 コミッティー、参加艇の皆さん有難うございました。

コメント	平成 23 年 7 月 24 日(日) MCCスモールクルーザーレース第四戦 曇り時々晴れ、絶好のセイリング日和のなか、まずはマリン広場の清掃から。台風による漂着物が多くレース前に早くも各艇汗だくに。参加艇は、はやぶさ・ホープ・あや の3艇。コミッティーはバイキング。小島ブイを2往復。ポート片上りで小島ブイへ。上マークからはスターボ・クォーターのスピラン。急遽参戦で船底が汚れたままの AYA は艇速が伸びず苦戦。前日のメンテナンスと日ごろの練習が功を奏し、はやぶさがファーストホーム & 初優勝！(祝)							
名称	7月スモールクルーザーレース							
コース	S-小島-S-小島-F	距離	4	マイル				
スタート	11:00:00	風速	4~6m		(B)	(A*B)		
セールNo	艇名	TYPE	MRC	到着時刻	着順	所要時間	修正時間	順位
1	HAYABUSA	Far727	0.861	11:54:13	1	0:54:13	0:46:41	1
6496	Hope	YAM21C	0.817	12:00:22	2	1:00:22	0:49:19	2
5426	AYA	YAM21S	0.822	12:19:09	3	1:19:09	1:05:04	3

MCC海のたより8月号・MCC海のたより8月号・MCC海のたより8月号

第52回パールレース参戦記 DBIII (M.Aの場合)

驚いた事に急性胃腸炎の診断で、生まれて初めて点滴を受ける事になってしまった。空港へ移動する時から、きりきりと胃が痛かった。我が家に辿り着く前から一通りの薬、パンシロンから大正漢方胃腸薬、はたまた百草丸に正露丸まで飲んだのに体が“ぐ”の字に曲がったまま一向に良くならない。深夜になって、とうとう救急外来の世話になってしまった。それにしても、明日は回航だが、大丈夫だろうか？点滴が終わると、医者曰く「まあ、今日は泊まって行って下さい」との事。まずい！事情は説明できないので必死で屁理屈をこねて、必ず明日は専門医の診察を受ける事を条件に帰してもらった。しかし、点滴は凄いと思った。痛みが取れた。(点滴と痛みは関係無いらしい？)

明けて回航当日は早朝のハーバーで皆に無理を言って、陸路で行く事を許してもらった。

愛艇を見送った後、約束通り診察を受け、病院がくれた痛み止めをお守りに駅に向かった。

近鉄宇治山田駅に到着するとVOCのマイクロがレースクルーを一杯に詰め込み、私も何とか補助席に体を沈める事ができた。初めての陸路だが、緑の中の見慣れた景色に暫し胃痛を忘れて、気分が高揚する。パーティーが始まって回航組が来ないので心配だが、それにも増して心配なのはテーブルに並んだ沢山の美味しい食事だ。昨夜の事があるのに食べていいものやら？暫くすると回航組が無事に到着、最近流行のゲリラ豪雨に遭遇して、ずぶ濡れだ。お疲れ様！船を舫って、本日の宿「さざなみ亭」に移動した。レース前じゃ、ほんと勿体無い、五ヶ所湾を一望できる露天風呂、今までとは全く違うパール前日をゆっくり過ごし、悪夢は完全に消えていった。

レース当日の朝はVOCに向かう車中で、どこの船か知らないけど、女性クルーと和気藹々で気分は上々。ハーバーに着くとサイキの壁谷さんがミッションに水が入ったとかでリタイヤを決め残念そうだった。恒例になった舵誌と中村さんの写真撮影で士気を高めるが、過去この時の舵誌の写真を見た事は無い。準備を終えて出航。昔、鳥羽がスタートの時代は100杯を超えるレース艇がと、一人思いに耽るのは、やはり歳を取ったせいかな？スタート海面では例によって、いろんな人に挨拶をして回る。Jの山内さんたちも元気だ！その昔、やはりJでパールに出た人たちも身近にいたなあと思ひながら、彼らの健闘を祈った。スタート時刻が近づくにつれて風は落ちて行く。ラインがかなり広いので下へ行くと半島を交わせないような気がした。

多分、皆はリミットへ行くだろうから真ん中でも構わないだろう？ダブルハンドがスタートする頃には、かなり風は落ちていた。カウントダウンを始めてラインに寄せるが思うように走れない！

スタート時刻を過ぎてもラインを切る事ができなかった。思い切ってタックを決意する。フレッシュが入る所で返して神の島へ向けた。今年は神の島の外を通らなくていいそうだ。勿論、布施田は駄目。とすると3つくらい通れる所があるらしい。今年はまだ一ついい事がある。何年振りかでセールが新しくなり、秘かに期待が高まる。久々に見る理想のカーブ！確かにスピードはいい！そういえば、宿が一緒だった女性の多い船が、すぐ後ろの33Sだと判った。決して走り負けて無い。セール力は大きいと思った。潮に洗われた暗礁を横目に見ながら、成り行きで布施田の外側を通過した。でも、角度が悪い。90度で進めたい所だが、120度を向いている。先行するパラフレがおかしい？スピンを落として上り始め、クルーがブームを抑えている。

ゴミは取れただろうか？そろそろジャイブのタイミングを考えていた。17:00を過ぎたので、プロパーコースに戻す事にした。そんなに風は強くないのに失敗！新品のスピニングがフォアステイにグルグル巻きだ。何とか降ろす事はできたが、再び走り出すのに結構な時間が掛かった。

ホーネットは沖に出て行くので、どんどん姿が小さくなって行った。順調に来たが、夜が深くなると共に風が落ちた。ホーネットは遙、先へ行ってしまったらしい！なんで？沖の方が吹いていると言う事か？しかし、勝負はここからが始まりだった。予報通りの無風に近い時間が続く！

3ノットの微風を新品のNo1で走らせると2ノットで走る。だが、それも僅かな時間だけで、長い夜が明けるまでの殆どの時間は、波で船が揺れてセールがパシヤンパシヤンと音を立てて漂うだけになる。周りにも相当な数が居るのが確認できる。雲の切れ間から覗く星たちに見とれながら、ひたすらその時を待っていたが、夜が明けても状況は変わらなかった。早朝5時過ぎに御前崎沖に到達。航海灯だけだった周りの船がはっきりと識別出来るようになった。皆、それぞれの方向を向いて安定してない。昼近くになって、やっと待望の風が東寄りで吹いて来た。

プロパーに対してイーブンになるよう陸側を選択して走った。順風になって数時間、目の前に伊豆半島がうっすらと見えて来たので、石廊崎をノータックで交わせるように一生懸命上らせながら走った。さあ、どの辺りでタックするか？遙前だがココリンが半島を背に沖へ出て行く。

神子元が見える位置まで来たので、ここら辺でやるか！とタック。船首がバッチリ利島を向いた。安定した風の中を調子良く進む。リーウェイがあるだろうから、どっかでワンタック必要だと考えていると、なんと！神風が吹いてシフトを始める。



出港前の記念撮影

みるみる変わって、遂には利島が回航できるまでになった。風も上がって 15 ノットオーバーになった。とにかく先行艇に付いて行きたい！

利島を越えると彼らのアングルを見ながら再びタックを決めて大島へ針路を取った。今年は反時計回りに海流が有らしい？とすると大島ハイウェイは逆潮か？どんな潮でも、今の風は西側へ連れて行ってくれる。逆らわずに進める事にした。ヘルムは2時間交替で休憩を取って、皆もそのペースで休んでいる。オールハンズが無いのが幸いだ。何度目かの交替でデッキに出ると、すぐ横に灯りの束が見えた。大島は本当にでかい。で、またもや風が無くなっていた。辺りを見渡すと5, 6杯が浮いている。じっと我慢をしていると再び風が入り出す。先行艇も走り出して大島に向かっていく。我々も同じ方向で付いて行く。街の灯りが迫ってくるのでタックのタイミングを図る。あれっ？もっと島寄りを後方から追っかけてくる一杯がいる。あそこまでは大丈夫なのか？と思いながら先行艇のタックに続いて、我々も江ノ島へ進路を取った。



吹き上がって安定した風に運ばれて数時間、やっと江ノ島灯台が確認できる位置まで来た。今年のフィニッシュラインは相当奥にあるらしい。確かに、江ノ島が見えるのにフィニッシュが判らない。しかも、あちこちに網が入っているようだ。ここまで来ても指示書とにらめっこしている。何とか最短コースで入りたい！時間が勝負だ。陸の灯り、信号、ブイの点滅、あらゆる灯りからフィニッシュを判別して、やっとリミットと本部艇を特定、最後まで集中してシューティングを決めた。

日曜、朝4時44分フィニッシュ！フォグホーンが微かに聞こえた。ゴムボートに乗った舵誌のクルーが撮影の為に寄ってくる。空は白んで来たが、本当に写るのか？お疲れさん！疲労困憊の顔に笑顔が微かに戻る。いつもながら今回も苦しいレース展開だった。しかし、我々のような30フィートクラスは、こんなレース展開でしか勝機は望めない。回航メンバーはトンボ返りなので、束の間の休息を取る為、江ノ島港に入る。

片づけをしていると、既にフィニッシュした船のクルーたちがレースを振り返る会話が断片的に聞こえてくる。レースの間は暖かい食事が無かったので、空腹を満たすカップ麺がやけに美味しい。さて、腹が膨れると、何と無く成績が気になって落ち着かなくなってきた。クラブハウスでシャワーを浴びて帰ってくると、いろんな人が情報を持って来るので、満更でも無さそうな空気が我々を包み込み出した頃、世の中そんなに甘いものじゃない事を思い知らされる。淡い期待は、瞬間に掻き消されてしまった。

総合4位、Cクラス優勝。……またしても、健闘むなしく惜敗を重ねる結果になってしまった。

ここ数年、苦渋に耐えるレースが続いたので、何とか一矢報いたと参戦を続けて来た。そして、今年もこの展開ならばいけるか？と思っていた。いつも感じる事だが勝負の世界は非情だ、容赦はない。どこが足らなかったのか？何がいけなかったのか？想いが頭の中を駆け巡る。

釈然としない気持ちは直ぐには癒えないが、一つ減ったお守りの痛み止めがなんとも悲しい。月曜からの出勤に備えて、回航メンバーの安全を祈りつつ、曇天の江ノ島に別れを告げた。



ホーネットのパールレース



中村

昨年は艇の入れ替えの為不参加、2年ぶりのパールレース、シーム31での初参加。

パール対策でスピンを大きくしようと検討、新調しなくても33Sの中間リグのスピンをそのまま利用できると判断、ポールも33Sから流用。IRCトライアルするとTCC1.016が1.020。この際さらに検討を進め、ジブを小さくすればTCCも上がらないで済むのでは??ゼノアを捨ててNo2で.....

パール、微風も多くライトゼノアは必需品.....でも向い風は強風が多い、No2で十分?

結果はスピンを大きくしジブは小さくして申請、結果は1.013 ダンシングの1.014より下がった。

これでMCCナイトレースに挑戦、微風のスピランに威力発揮、上りは風したい、これでよし

第52回パールレース、コースを見ると神の島回航がない?確認すれば小島の北側布施田水道は規制するが南は規制なし。南側の暗礁群と定置網をチェック、十分な水路がある。フリーの風ならショートコースを選択すべきだ。海流は例年になく離れている、伊豆大島の西には分流もなく反流の向かい潮が続いている??

どんなコースを選択すべきか悩む、風の予測では金曜日は西よりの風、土曜日石廊崎からは北東の微風。伊豆大島の東側コースの選択肢が強く現れる。

スタート時、予想どおり南西の微風、風向は安定しない中をWハンドがまずスタート、いよいよわれわれの番、ラインは下有利に設定され、中央でのスタートを狙い準備する。2分前ラインに向かうが風が変わる、風は落ち上れない、タックし本部船に向けるとホーンが.....ベベを避けて本部船の手前でタック、フレッシュを得てスタートラインを切れた。

微風の上り、No2、不利ではあるがフレッシュを得て中ほどの位置をキープ。風が次第に西に戻りスピンの可能性に?先行艇の一部が上げてからホーネットも早めの厳しいスピン、ただしレギュラスピンを。これで小島南の暗礁群水路を抜け、その後、大スピンに変更。

このころホライズンとミーティング、次第に離す事ができた。そして前に大き目の艇に近づく、見ればパラフレニアン、どんどん近づき追い抜く、たぶんゴミを拾っているんだろう。快調に進んだあとに.....微風のジャイブ、揺れる艇上、コントロールミス、スピンの巻きついてしまった。なかなか戻らない、追いついた艇も離れて行く。もうだめ.....マストに昇る?なんとか外れた、ホ!

見ればパラフレも追いついてきて追い抜かれる(ゴミがとれたか)

その後も沖コースを採ったホーネット、駿河湾沖までは良いポジションであったが神津島北から式根島、新島も回り大島の東へ、この時点で後続艇にはほとんど抜かれてしまったようだ。夜半から強風の上り、大島から江ノ島に向けて頑張りました。フィニッシュは日曜日の朝、7時半。江ノ島港の前で蒲郡に向けて帰るダンシングに会いました。セールには問題なかったがコース選択に問題があったようです。

その後は片付けと休憩、到着予定が遅れたので大島波浮港をあきらめ今日は何処に立ち寄るか.....検討の結果は伊東泊まり。石原さんの到着を待って昼食後の12時に出港、伊東サンライズマリーナへ16時着。温泉やレストランも併設されている道の駅、海の駅。ここで燃料、氷を補給、干物を仕入れて夕食。(残念刺身がなかった)ぐっすり寝て翌日は7時に出港し石廊崎へ、昼食に入り江に立寄る。漁師に接舷できるか聞いてアンカーを入れて



石廊崎漁港

21時に出港したがセールアップせずに機走で神島を目指す。3人で1時間交代のワッチ、5時頃伊良湖水道に入り朝食の為やはり伊良湖港に立寄る。走りながらも食事はできるがやはり静かな港でゆっくりが良い。伊良湖港は昼市なので朝の魚市場は気楽に接岸できる。

朝食後の7時に出港すると雨が、雨の東風、機走で蒲郡へ10時過ぎに無事到着、お疲れ様でした。



遠州灘夕日

第52回パールレースに参加してきました。

B e B e 小林

B e B e IIIは一昨年以來2回目、私自身17年ぶり二度目の参加です。都築艇長、私、うらなみの近藤君、中村君、メリーサンの田中君の5名。艇は28日0時、都築と田中の2名で五ヶ所へ回航、私と近藤、中村は29日早朝に名古屋経由で志摩ヨットハーバーへ、10時過ぎに到着。舵社のカメラマンに記念写真を撮ってもらい、早々にスタート海面へ。他の参加艇を見ると速そうな大型艇ばかり、チョット緊張気味（私だけかな？）

スタートは遠慮気味にワントレポ遅く本部艇寄りからスタート。ホーネット、ダンシングにスターボータックでミーティング、まずは布施田水道南沖の暗礁群の切れ目を抜けるために（今年は神の島回航不要）ホーネットに離されないようについて行く（だいぶ離されてしまいました）

ライバル艇（目標）のブーメランJ24を後ろに見て通過、伊豆大島沖の利島を目指す。フリーの風、スピランで順調に艇を進める。ブーメランをかなり離れた。

暗くなってからは風が上がりスピラン8k~9kオーバーのスピードで快走。私は夜は目が見えないのでヘルムスを近藤、中村に任せる。明け方、空が明るくなる頃から風が落ちる。朝6時のロールコールでB e B eはかなり良いポジションに居る様である。

このままコンスタントに風が続けばと思ったとたん風がなくなる。スピンをおろしてジブアップ、セールが安定しない。昼前、11:30頃まで御前崎沖で漂う。12:00のロールコール時点で回りに十数艇が確認できる。13:30石廊崎手前でこの先を検討、フィニッシュは日曜日の午後になると判断、帰りの日程が難しくなることからシリタイヤを決定、夕方には松崎港に入港しました。



出港前の記念写真



コンテッサ、中央に石原知事

レースは完走できなくて大変残念でしたが松崎港には初めて入港できたし、港前の食事処でうまい物がたくさん食べられて満足です。20時前に回航組の島田君も車で到着、合流。21時、私、近藤、中村、横着3人組は島田君の車で蒲郡へ。回航組は仮眠をとってから明け方4時に出港、日曜日21時過ぎに蒲郡に到着しました。また、チャンスがあればパールへ！！

7月17日海の日体験乗船

ラグーナ蒲郡をベースに海の日記念の体験乗船を実施しました。

MCCからはベベ、オデッセイ、ルートリス、アルミスの4艇が協力しラグーナの2艇と合わせて6艇で午前午後の2回延55人の皆さんに体験いただきました。遠くは大阪和泉市、三重志摩市から来ていた人も居ました。

一部の艇ではスナメリに会え大喜び、良い風に恵まれて無事終了しました。ご協力ありがとうございました。



MCC海のたより8月号・MCC海のたより8月号・MCC海のたより8月号